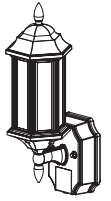


LIXIL ブラケット クラシック(LPJ-8型)

取付説明書

お客様へ 器具の施工には電気工事士の資格が必要です。必ず販売店、工事店に依頼してください。

工事店様へ 施工の前によくお読みのうえ、正しく施工してください。
この説明書は必ずお客様にお渡しください。



安全上のご注意

必ずお守りください

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。

■お守りいただく内容を、次の図記号で説明しています。

警告 「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。

注意 「傷害を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

してはいけない内容です。

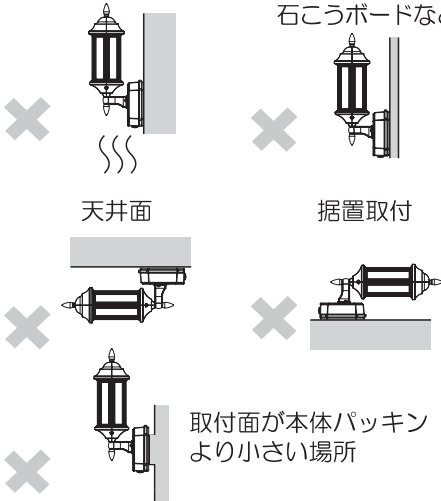
実行しなければならない内容です。

警告

■取付面

- 次のような場所には取り付けない
火災、感電、落下によるけがのおそれがあります。

浴室などの湿気の多い場所
補強のない場所
(ベニヤ板や石こうボードなど)



◎この器具は防雨型・壁面取付専用です。

■その他

- 器具の取り付けは、説明書に従い確実に
取り付けに不備があると、火災、感電、落下によるけがのおそれがあります。
- 交流100ボルトで使用する
過電圧を加えると過熱し、火災、感電のおそれがあります。
- 電源線は端子台の差込み穴の奥まで
確実に差し込む
差し込みが不完全な場合、火災、感電のおそれがあります。
- 検知部が下になるように取り付ける
浸水による感電のおそれがあります。



必ず守る

- 取付面と本体パッキンのスキマおよび
パッキン外周部にシール剤を塗る

本体パッキンと取付面とのすき間を防水シール剤などで埋めてください。



防水が不完全な場合、火災、感電のおそれがあります。



- 接地工事は、電気設備の技術基準に従い
確実に

アース線接続 接地が不完全な場合、感電のおそれがあります。

注意



●温度の高くなるものの近くに取り付けない
 火災の原因となることがあります。
 ◎ガス機器やその排気筒の近くに取り付けしないでください。

施工前にお読みください

設置場所についてのご注意

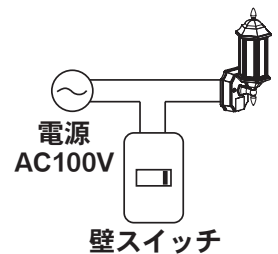
●次のような場所には取り付けしないでください。
 この器具は、周囲の明るさと温度変化をセンサで検知して動作するため、以下のような場所に取り付けると誤動作の原因となります。

<p>❌ 反射の強い床面のある場所</p>	<p>❌ 風などでよくゆれる植物の近くなど</p>	<p>❌ 取付高さが3mを超える場所</p>	<p>❌ エアコンの吹き出し口、換気扇の近く</p>
<p>❌ 交通量の多い道路に面した場所</p> <p>車など人より大きな熱源の場合、取扱説明書記載の検知範囲より広くなります。</p>	<p>❌ 前面に障害物のある場所 (透明なガラスも含む)</p>	<p>❌ 振動の激しいポールなど不安定な場所</p>	<p>❌ 昼間でも暗い所や夜間でも明るい場所</p>

●一般屋外仕様ですので、海岸隣接地帯では、塩害により短期間で錆が発生するおそれがあります。

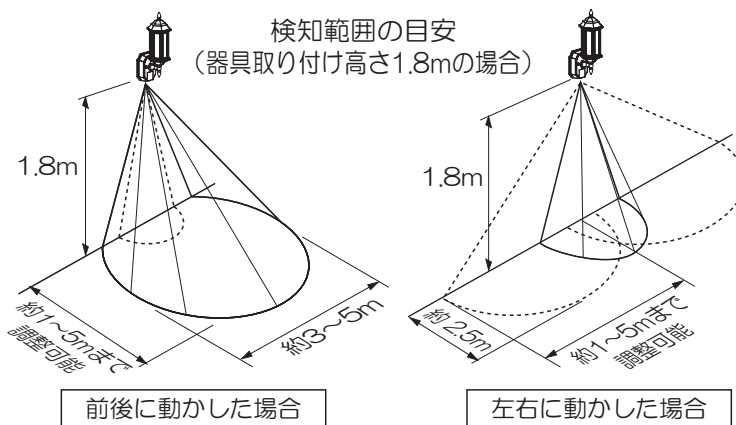
配線についてのご注意

- 必ず壁スイッチを設けてご使用ください。(スイッチは別途ご用意ください)
 - ・連続点灯への切り替え操作ができません。
 - ・センサによる点灯モードに異常が発生したとき、リセットできません。
- 壁スイッチはセンサ器具1台につき1個で使用してください。1個のスイッチに2台以上のセンサ器具を接続すると、連続点灯への切り替え操作の際に、全ての器具が同時に切り替わらないことがあります。
- 壁スイッチにパイロットスイッチを使用すると、壁スイッチがONの状態でも照明器具が消灯状態(センサ待機状態)のときは、パイロットスイッチ表示が点灯しない場合があります。(故障ではありません)
- 通常は壁スイッチをONにした状態でご使用ください。



センサの検知範囲

- センサの検知部を動かして、検知範囲を調整できます。(センサの検知部は全方向に約20度動きます)
- 器具の取り付け高さ1.8m(標準)~3mの間では、検知範囲は変わりません。



ご注意

この照明器具のセンサは熱源の温度変化を動きとして捉えます。そのため人以外にも動植物、自動車なども検知します。また周囲条件(気温、地面の状態、取り付け高さなど)、進入する人の状態(服装、移動速度、進入方向、体温など)により検知範囲が大きく変化します。

- 検知範囲が広がる場合
 - ・冬場など気温と体温の差が大きいとき
 - ・人よりも大きな熱源(車など)が移動したとき
- 検知しない、検知感度が鈍い場合
 - ・人が静止しているとき
 - ・周りが明るいとき
 - ・夏場など気温が体温に近づいたとき
 - ・センサに向かってまっすぐ近づいたとき
- 勝手に点灯する場合
 - ・道路を通行する人、車、犬、猫などを検知したとき
 - ・風、雨、木のゆれなどを検知したとき
 - ・急激な温度変化を検知したとき
 - ・換気扇などの吹き出し口、給湯器、エアコンの室外機などの温度変化の影響を受けたとき
 - ・ごく短い停電(瞬時停電)が発生したとき

調整ツマミの設定について

この器具は取り付け後、ご使用の環境に合わせてセンサの検知範囲、調整ツマミの設定が必要です。必ず、「検知範囲と調整ツマミを設定する」をお読みのうえ、設定してください。

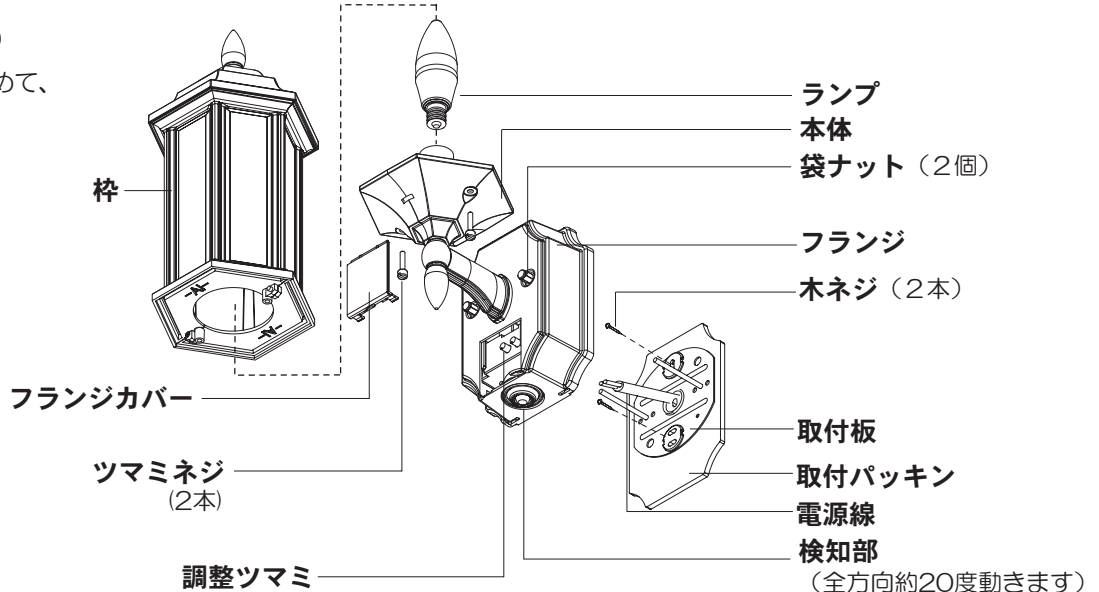
各部のなまえと付属部品

施工する前にまず付属部品をご確認ください

取り付け前の準備

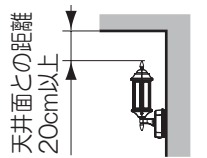
- 袋ナット（2個）をゆるめて、取付板を取り外す。

付属部品

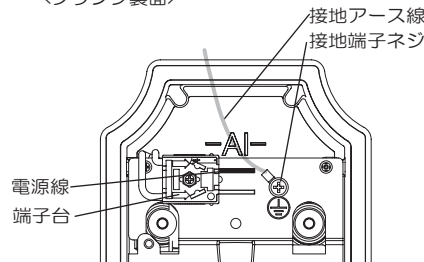


器具と天井面は20cm以上離してください。

指定距離より近いとランプ交換の作業が困難になります。



<フランジ裏面>



照明器具を取り付ける

安全のため、電源を切ってから行ってください

付属の木ネジ（2本）で

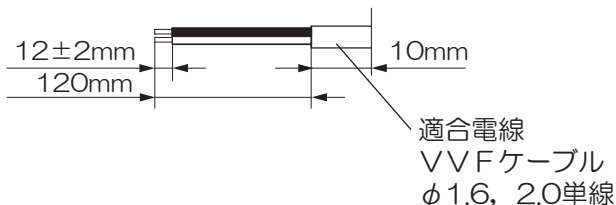
1 取付板を取り付ける

◎取付ピッチ：66.7mm、83.5mm

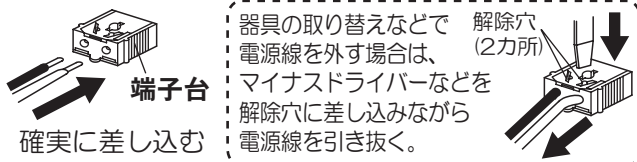
端子台に

2 電源線を接続する

①電源線を下図のように加工する



②電源線を端子台に差し込む

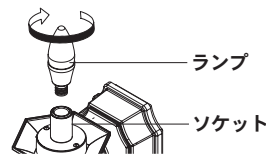


③接地端子ネジからD種（第3種）接地工事を行う

④接地アース線を本体の接地端子ネジに取り付ける

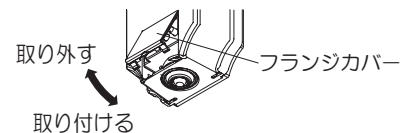
ソケットに

3 ランプを取り付ける



4 検知範囲と調整ツマミを設定する (次ページ参照)

<フランジカバーの取り付け・取り外しかた>



フランジカバーは必ず取り付けて使用してください。フランジカバーを取り外したまま使用すると、水が浸入し、感電・故障の原因となります。

5 枠を取り付ける

①枠を本体に乗せる。

②枠を押えながらツマミネジ(2本)

- 取付後、枠にガタツキが無いことを確認ください。

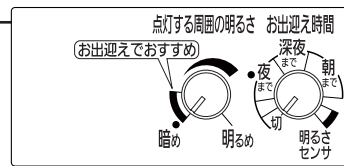
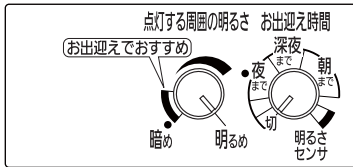
- 設定の前に
- ①壁スイッチをOFFにする
 - ②フランジカバーを取り外す

1 センサの検知範囲を調整し、点灯確認をする

出荷時の設定

[手順]

- ①あらかじめ、調整ツマミを以下の設定にする



点灯する周囲の明るさ——「明るめ」（右いっぱい回す）
お出迎え時間——「切」（左いっぱい回す）

- ②検知部を動かし、設置場所に合わせて検知範囲を調整する

- 検知部は、全方向に約20度動きます。
- センサの検知範囲は、 2ページ「センサの検知範囲」を参照ください。

- ③壁スイッチをONにし、センサの検知範囲の外に出る

➡ 約40秒間点灯してから消灯します。

消灯しない場合は、以下の原因が考えられます。

- お出迎え時間が「切」になっていない ⇒ お出迎え時間を「切」にする
- センサの検知範囲に入っている ⇒ センサの検知範囲から外に出る
- 連続点灯になっている ⇒ 壁スイッチを一度OFFにし、5秒以上おいて再び壁スイッチをONにする

- ④消灯したら器具に近づいて、点灯することを確認する

- センサの検知範囲の外に出てから約5秒後に消灯します。

いったん壁スイッチをOFFにして

2 使いかたに合わせて調整ツマミを設定する

以下の3種類の使い方ができます。（詳しくは 取扱説明書3ページ）

使いかた	お出迎えモード	ON/OFFモード	明るさセンサモード
動作	暗くなったら点灯 設定時刻になると消灯 設定時刻以降は人が近づいたときに点灯	暗くなって、人が近づいたときに点灯	暗くなったら点灯 明るくなったら消灯
おすすめのツマミ設定			
詳しい設定方法	取扱説明書4ページ	取扱説明書5ページ	取扱説明書6ページ

3 フランジカバーを取り付ける

3ページ「照明器具を取り付ける」 **4** 参照

4 壁スイッチをONにする

➡ スイッチONにした直後は周囲の明るさに関係なく、約40秒間点灯します。

ご注意●お出迎えモードに設定した場合
壁スイッチをONにした初日は、手順2で設定した「お出迎え時間」ツマミの位置に関係なくお出迎え点灯は約4時間で終了します。翌日より設定した時刻通り終了します。

取説コード

Z530

XXX017586
201402A_1009
201607B_1049